

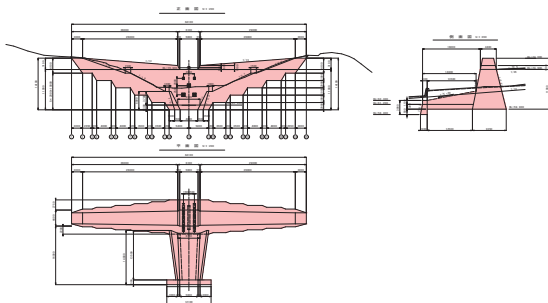
■効果の見える治水事業

香川県 森兼川(東かがわ市与田山)の砂防事業
『森兼川 通常砂防工事』

香川県長尾土木事務所長 ひぐち すずむ
樋口 晋



事業箇所 東かがわ市与田山
事業期間 平成21年度～平成23年度
全体事業費 101百万円
事業計画 砂防堰堤1基
堤高 11.0m
堤長 64.1m
堤体積 2,790m³
貯砂量 1,532m³
流域面積 0.03k²



本溪流は、二級河川湊川に流れ込む、流域面積0.03km²、平均渓床勾配1/13の土石流危険渓流であり、下流には災害時の避難所となる福栄コミュニティセンターをはじめ、人家6戸、消防屯所、国道等が存在しています。当流域では、平成16年10月に発生した台風23号の影響で山腹崩壊、溪岸浸食が発生したほか、今なお、流域内に不安定土砂が堆積しており、今後の降雨により更なる土石流災害の恐れがあります。

このような状況に鑑み、土砂災害の発生を未然に防止し、住民の方々の生命、財産を守るための砂防堰堤建設を計画しました。

当事業は、平成21年度に事業着手し、地元住民の皆様のご協力のもと、平成23年度に完成しました。



流域全景と保全対象(広域避難所)



平成24年4月時点

市民の安全安心を守る防災対策について



東かがわ市長 ふじわら しげあき
藤井 秀城

香川県の東部に位置する本市は、平成15年に旧引田町、白鳥町、大内町の3町が合併し「東かがわ市」として新たにスタートしました。

地場産業では、全国シェア90%以上を誇る手袋産業が有名で、プロ野球選手やメジャーリーガー、プロゴルファーなどの手袋の多くは市内の企業を中心に製造されています。また、全国で初めて成功したハマチ養殖の発祥地としても知られています。かつて讃岐三白(塩、砂糖、綿)と言われた中の一つの、サトウキビから作る「和三盆糖」の製造など、技と心を今なお受け継ぐ、伝統と文化、自然環境豊かな市です。

これまで、過去の集中豪雨や台風災害などを教訓に、自然災害から市民の生命・財産を守るため、防災対策を積極的に取り組んで参りましたが、3.11「東日本大震災」以降、近い将来に高い確率で発生が予測されている東南海・南海地震などの巨大地震や津波に対する対策が不可欠となり、本市の防災対策を根本から見直しながら、ハード・ソフトの両面から防災対策に取り組んでいるところです。

ソフト面では、ほぼ市内全域で結成されている自主防災組織の強化育成、既存防災マップの見直し、防災情報の修正・追加、及び地震津波ハザードマップの作成などを予定しています。また、防災情報伝達機能の強化として、従来からの防災行政無線、エリアメールに加え、J-ALERTと告知放送端末を接続し、緊急地震速報など市民へ瞬時に情報提供が出来るよう整備したところです。

ハード面では、国や県により実施いただいております、道路、河川、海岸などの防災対策事業に併せて、排水ポンプ場の整備等による浸水対策、学校再編による施設整備や校舎の耐震改修、給水設備の耐震補強など公共施設の防災対策を進めております。さらに、防災拠点となる新庁舎建設についても進めたいと考えております。

今後も、災害に強い「安心して暮らせるまちづくり」を目指し、防災課題を十分検討しながら、具体的に効果のある防災対策事業を推進してまいります。

【図上訓練】



【防災講演会】



【学校再編による施設整備事業】



【海岸浸食対策事業】

